



#5 マッハ車検 MC86Y's distraction ドライバー 平木湧也

渾身のアタックで予選 Q1 を 8 番手で突破！
入賞も夢ではなかった決勝レースも、最後は不運に泣く……



スーパーGT 第5戦

2018年8月4日～5日 富士スピードウェイ（静岡県）

晴れ 177周（29台出走）

ドライバー：平木湧也

第5戦 予選 12番手／決勝 19位



茨城トヨペットレーシングから GR 86/BRZ レースに挑む、平木湧也選手は今シーズンから併せてスーパーGTのGT300にも出場することとなった。操るのはTEAM MACHの「マッハ車検 MC86 Y's distraction」。全8戦で争われるシリーズの第5戦が、富士スピードウェイを舞台に予選が8月4日（土）に、決勝レースが8月5日（日）に開催された。

TEAM MACHは第4戦のタイラウンドを欠場しているため、湧也選手にとっては今回が4戦目のスーパーGTになる。まだ入賞は果たせていないものの、今回の舞台と同じ富士スピードウェイで行われた第2戦では12位という結果を残していた。そういった意味では、今度こそ……の期待もかかる一戦となった。

今回も予選では湧也選手がQ1を担当。それはこれまでの3戦にも共通し、チームから寄せられる信頼の証と言えるだろう。一方で、公式練習ではABSにトラブルを抱えていたことから、施した対策の確認をするため、計測時間をフルに使って走行することともなっていた。初めは慎重に、しかしほぼ問題のないことが明らかになった後半には、いよいよアタックを開始。2周連続で1分38秒台に叩き込むも、それではQ1突破なるかギリギリ。すでにタイヤのピークは近づいていたものの、いったんクールダウンを行い、チェッカーが振られる周に湧也選手は再度アタックをかけ……。

その結果、1分38秒320まで短縮を果たし、8番手にまでジャンプアップに成功。続いてQ2に挑んだパートナーのアタックは12番手に終わったため、決勝レースには6列目からスタートすることになったが、湧也選手の走りにはチームからも高い評価が与えられた。

「頑張りました（笑）。朝、いろいろトラブルはあったんですが、全部取り替えたので、それはなんとか頑張って、確認の意味を含めて長く走らざるを得ないというのはあったんですが、最後にしっかりと！」と湧也選手。

今回のレースはスーパーGTでは初めてとなる500マイルでの開催となり、約800kmも走り続けることから、3人目のドライバーが登録可能であるとともに、ドライバー交代を伴うピットストップが4回義務づけられている。そこで湧也選手はスタートを担当するとともに、第1スティント、第3スティント、そして第5スティントを走る予定となっていた。

決勝レースをまずポジションキープから開始した湧也選手ながら、さっそくバトルを繰り広げて5周目には12番手に浮上。前で早々と最初のピットストップを行うチームもあり、また9周目には前回のウィナーをかわしてきたこともあり、9番手に躍り出ることとなる。その先もバトルは続き、17周目には8番手にまで上がってくる。

だが、その頃、湧也選手のクールスーツが故障し、25周目に緊急ピットイン。熱中症にもなってしまったことから、当初の乗車予定が改められて第4ステイントを走ることになる。96周目に再びマシンに乗り込んだ時は、もう体調も回復しており、湧也選手は8番手にまで振り返り咲くこととなった。

今季初の入賞も間近.....と思われたのだが、そんな最中にボンネットに衝撃が！ 外れかけるほどの勢いだったこともあり、132周目に再び緊急ピットインを余儀なくされる。復帰後もパートナーがタイヤのピックアップに苦しみ、ピットに戻ってきたことから入賞の可能性はなくなってしまったが、今後に向けては高いアピールができたのは間違いない。

次のレースは9月15～16日に、マザーシャシーが得意とするコースのひとつ、スポーツランドSUGOで開催される。ライバルの多くはウエイトハンデを積む中、幸か不幸か、ノーハンデで挑めるメリットは計り知れず。湧也選手の大暴れに期待したい。

平木湧也選手のコメント



「決勝の第1ステイントで僕のクールスーツが壊れ、熱中症になってしまったことで、当初3ステイント走る予定が、次は第4ステイントだけになってしまいました。両ステイントとも、ABSが効かない状態の中でもいいペースで走れましたが、第4ステイントでスピンしてしまって(苦笑)。でも、それ以外のペースはトップと同じぐらいだったので、それはすごく良かったと思います。チームも積極的に僕を使ってくれるので、信頼も少しずつ上がってきているのかもしれない。ボンネットが開きかけるアクシデントは、たぶんタイヤハウスの中に溜まっていたカスが落ちて、跳ね上がってきたんじゃないかと思うんです。それで僕の判断でピットに戻ってきたんですが、最後はなんかうまく噛み合わなかったですね。次のSUGOはMCの得意なコースなので、ここでいいところに行けたらいいな、と思っています」

